

高学年分科会（対象：6年1組23名）

1 分科会提案

（1）目指すよい学習像

高学年分科会第6学年で考えるよい学習とは、児童一人一人が自分事として学習と向き合い、「もっと知りたい」「やってみたい」と思える学習である。そのためには、学ぶべきことが明確になっており、「できた」「分かった」などの手応えを自分で感じられることが必要である。

また、「価値ある対話を生かしたよい授業」とは、自分の考えを深めていく中で、自らの課題を見付け、その解決に向けた学習の中で現れると考えた。「自分の考え」とは、自ら学習に関心を持ち、自己の課題の解決に向けて理由や根拠を基に考えたものとした。「深める」とは、友達と議論し互いの考えを認め合ったり、自らの考えを確立していったりすることであると考えた。

「読むこと」の指導を通して、児童同士が想像する物語世界を理由や根拠を基に伝え合い、思いや考えに共通点や相違点があることを実感させることで、自分の考えを深め、すすんで伝え合う児童が育成できると考えた。

（2）「よい学習」を実現するための手だて

①自分の思いや考えをすすんで他者と伝え合うための学習活動の工夫

・学習カードの工夫

「なぞカード」

物語を読んで疑問に感じたことと、その解釈についてまとめる学習カードである。それを基に他者と考えを伝え合うツールとした。グループでまとめを行う際には、一つの解釈に考えをまとめるのではなく、グループの中で出た様々な解釈を「なぞカード」に表し、様々な考えが出たことを視聴グループ伝える。また、「なぞカード」では、自分の考えを他者に伝えやすいように、物語の文中から理由や根拠となる表現を書き出したり、想像した物語世界の様子を絵や図で表現したりできるようにした。さらに、他者と考えを伝え合ったときにどのような話し合いが行われていたかを振り返り、自分の考えを深めることができるように、自由にメモを残すことのできる欄を付けた。

・学習形態の工夫

物語の中から疑問を見だし、「答えがすぐ見つかるもの」か「友達の考えを聞いてもっと知りたいこと」なのか疑問を精査し、自ら学習課題を設定することで、主体的に学習課題に向き合いその解決に取り組むことができると考えた。また、友達と共に学習課題を解決することで多様な考えに触れ、自分の考えに説得力をもたせたり新たな発見に気付いたりすることができる。そして、伝え合ったことを基に自分の考えを再構築することによって学びを深められるようにした。

②自分の考えを深める学習過程の工夫

表現の工夫や情景描写から物語世界を具体的に想像し感じたことを友達と伝え合うことで、人によって解釈の仕方が違うことを理解したり、感じたことを言葉にすることで心を豊かにしたりすることなどをねらいとしている。

本単元では、学習指導要領の各学年の目標を基に学習過程を3つに分けて考えた。「やまなし」の表現の工夫から「言葉がもつよさを感じ、読書を楽しむ」時間、作者の他作品に触れ「幅広く読書をすることで、言葉のもつよさに気付く」時間、自分の思いや考えを伝え合おうとすることで「言葉のもつよさを認識する」時間とした。これらを通して、進んで読書をする児童の育成を目指す。

各時間のねらいを達成するために学習カードを作成し、友達の考えに触れたり自分の考えを理由や根拠を基に明確にもてたりするようにした。

2 単元名 「賢治のふしぎ発見！～作品の世界をのぞいてみよう～」

教材名 「やまなし」(光村図書 国語6年上)

3 教材観

「やまなし」は作者独特の表現が多く、児童にとって、一読しただけでは作品世界を捉えることが難しい作品である。物語中の疑問点や不明点を挙げ、その解決のために根拠となる叙述を探る過程で、作者の表現の工夫に気付き味わうことができる作品である。また、友達と考えを交流することで、一人で「やまなし」を読んでも分からないことが少しずつ見えてきたり、自分の根拠としていたことがより確かなものに変わったりする。自分と他者の感じ方の違いを知ったり、自分がどのような見方・考え方を働かせたのかを意識したりするなど、自己の学びをしっかりと見つめる場としていきたい。さらに、このような学習経験を「やまなし」以外の他の作品を読む際にも生かし、読書が好きになるきっかけとしたい。

単元の後半では、さらに作者の独特の表現を味わえるように、宮沢賢治の他の作品を読む学習活動を取り入れた。そこで、「注文の多い料理店」「オツベルと象」「どんぐりと山猫」から児童が選ぶようにした。理由として、物語の長さが「やまなし」と同程度のもの、作品世界を捉えやすいものという観点からこの3冊を選んだ。また宮沢賢治の作品集を廊下に用意した。作者の生い立ちや作品に込められた思いに目を向けることにより、児童が宮沢賢治に興味をもち本単元の学習に意欲的に取り組む姿をねらっている。

4 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる (1)ク 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。C(1)エ ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。C(1)オ ・ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 C(1)カ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喻や反復などの工夫に気付いている。 (1)ク 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において、宮沢賢治の作品の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1)エ ・ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、なぜカードに自分の考えをまとめたり、意見や感想を共有して、友達の考えや自分の考えを広げたりしている。 C(1)カ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉がもつよさを認識しようとしている。 ・ 思いや考えを伝え合おうとしている。

5 児童の実態

本学級の児童は物語を読むことを好意的に捉えている。4月には、「帰り道」の学習では、物語の世界を具体的に想像することに楽しさや面白さを感じていた。また、友達と関わりながら学習することで、新しい発見があったり気付いていないことを教えてもらったりと、期待感をもって学習に取り組もうとしている。一方で、自分の考えを表現したり友達に自分の考えを認めてもらったりすることに難しさを感じている児童もいる。

本単元では、児童同士が物語の楽しさや面白さを表現し伝え合いが活発になるような学習過程にすることで、これらの児童の意識を変え、共に学習することにより自分の学びを深めることができるような学級にしていきたい。

6 指導計画

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
一 次	1	①「やまなし」を読んで、分からなかったところや気になったところを挙げ学習の見通しをもつ。 ②作品を読んで作者の独特な表現や言葉、思い浮かべた情景について、気になったことを挙げる。 ③挙げた疑問点について、自分なりに答えを考える。	・疑問に対する自分の考えは予想でもよいこととする。 ・考えても分からなかったことは、友達と共有して解決していくことを伝える。 ・疑問と自分の考えをクラスで共有し、様々な考えがあることに気付かせる。 ◆物語世界の全体像を具体的に想像するとともに、表現の効果について考えている。 【思】☆記述・発言
	2	④疑問点について考えた自分の考えをグループに発表し、友達と考えを伝え合う。 ⑤友達の解釈を聞き、根拠として納得できるものを考える。 ⑥自分の考えや友達から教えてもらったことを理由や根拠にして、疑問に対する自分の考えをまとめる。 ⑦自分の考えを発表する。	・疑問点に対して、登場人物やものの動き、その関係性や情景等、様々な理由や根拠があることに気付かせる。 ・友達との共通点や相違点に目を向け、考えを広げられるようにする。 ・自分の考えを発表し、伝え合うことで、考えが深まることのよさに気付かせる。 ・伝え合いで考えがより妥当性のあるものになった理由や、友達の意見によって自分の考えが変わった理由を合わせて発表させる。 ◆語のリズムや表現のもつ美しさ、比喻などの表現上の特色に気付いている。【知】☆記述・発言 ◆学習の見通しをもって自分の考えを書いたり、友達に思いや考えを伝えようとしたりしている。【態】☆記述・発言
	3	⑧二次元コードから見られる、宮沢賢治の資料動画を見る。 ⑨資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の言動や出来事を整理することで、作者の生き方や考え	・宮沢賢治の考え方が分かる叙述に線を引きながら読むように促す。 ・交流を通して、自分が着目していなかった出来事や言動に気付かせ、より深く宮沢賢治の生き方や考え方について考えさせる。

		<p>方をとらえる。</p> <p>⑩資料「イーハトーヴの夢」を読んで、作者について知る。</p> <p>⑪学習カードに言動や出来事を記入する。</p>	<p>◆文章中の叙述に基づいて、自分の考えをまとめている。【思】 ☆記述・発言</p> <p>◆友達の書いた文章を読んだり、話し合ったりして、自分の考えを広げている。</p> <p>【思】 ☆記述・発言</p>
	4	<p>⑫『「やまなし」は何を表しているのか』という疑問についてグループで伝え合い、自分の考えをもつ。</p> <p>⑬自分の考えを学習カードに表し、友達と伝え合い、考えを比較する。</p> <p>⑭教師が作成した「なぜカード」の発表を受けて、考えたことをグループで話し合う。</p>	<p>・自分の考えと教師の考え、友達の考えを比較させる。</p> <p>・話し合いを通して、自分なりに疑問に対する解釈をまとめさせる。</p> <p>◆文章中の叙述に基づいて、自分の考えをまとめている。【思】 ☆記述・発言</p> <p>◆表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>【態】 ☆記述・発言</p>
二次	5	<p>⑮宮沢賢治の他の作品を読んで、疑問点を見だし、学習の見通しをもつ。</p> <p>⑯「やまなし」以外の作品を読む。</p> <p>⑰選んだ本から疑問点を挙げる。</p> <p>⑱グループで解決する疑問点を学習課題に設定し、自分の考えをもつ。</p>	<p>・他の作品から、興味のある本を選ばせる。</p> <p>※事前に作品を読んでおくようにする。</p> <p>・「分かりにくいところ」や「友達に伝えたい面白いところ」を視点に考えさせる。</p> <p>・これまでの学習を生かし、理由や根拠をもって自分の考えをもつようにさせる。</p> <p>◆語のリズムや表現のもつ美しさ、比喩などの表現上の工夫に気付いている。【知】 ☆記述・発言</p> <p>◆表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>【態】 ☆記述・発言</p>
	6	<p>⑲学習課題の解決に向けて、グループで伝え合い、妥当性のある考えを導き出す。</p> <p>⑳解決したい疑問についてグループで自分の考えを伝え合う。</p>	<p>・物語中の表現の工夫で気付いたことや自分が感じたことを理由や根拠にさせる。</p> <p>・グループで1つの解釈にならない場合は、複数の解釈をグループの考えとしてよいことを伝える。</p> <p>◆語のリズムや表現のもつ美しさ、比喩などの表現上の特色に気付いている。【知】 ☆記述・発言</p> <p>◆物語世界の全体像を具体的に想像するとともに、表現の効果について考えている。</p> <p>【思】 ☆記述・発言</p>
	7	<p>㉑学習課題を解決したことを発表するために、理由と根拠を明確にしてイメージ図やなぜカードにまとめる。</p> <p>㉒他グループとの交流に向けて、発</p>	<p>・学習課題とした場面や、「なぜ疑問に思ったのか」、解釈の理由を明確にして、載せるようにする。</p> <p>・解釈が他グループに伝わるように理由と根拠をもって「なぜカード」を作成させる。</p>

		表の準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提示、理由と根拠が伝わりやすいように言葉を考えさせる。 ◆文章中の叙述に基づいて、自分の考えをまとめている。【思】 ☆記述・発言
三次	8 (本時) ・9 ・10	<p>②③グループで見いだした学習課題と、その解決のための理由と根拠を他のグループに発表する。</p> <p>②④発表を受けた班は、その解釈について考えたことを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴グループには事前に発表グループの作品と疑問点を伝え、モジュールで作品を読ませておく。 【作品】 8時「オツベルと象」 9時「どんぐりと山猫」 10時「注文の多い料理店」 ・発表班のメンバーは、視聴班の話し合いに参加し、自分の考えの補足を行うようにさせる。 ・視聴班は発表班の考えが「その解釈に納得できるか」「他の考え方はないか」という視点で検討させる。 ・他のグループで伝え合いを行わせる。 ◆なぞカードを活用して、友達に思いや考えを伝えようとしている。【態】 ☆発言・観察 ◆友達と意見や感想を共有したことから、自分の考えを広げている。【思】 ☆記述

7 本時の学習(8/10時間目)

(1) 目標

互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりしようとする。
学習の見通しをもって自分の考えを、友達に思いや考えを伝えようとする。

(2) 展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法						
導入 (5分)	○学習の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習のめあてや、流れを確認する。 ・本時で扱う作品のあらすじを確認する。 						
	友達と意見や感想を共有して、自分の考えを広げよう。							
展開 (35分)	<p>○宮沢賢治の他の作品の「オツベルと象」を読んで見出した学習課題とその解釈について、なぞカードを使って、各グループで発表する。</p> <p>○発表を聞いたグループで、「その解釈に納得できるか」「他の考え方はないか」を視点に考えたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表をした人はグループに残り、発表で伝わらなかったことを補足する。 ・発表グループが移動し、伝え合いを行う。 <p>《話し合いの形態》</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">発表者</td> <td style="text-align: center;">発表者</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">視聴者</td> <td style="text-align: center;">視聴者</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">視聴者</td> <td style="text-align: center;">視聴者</td> </tr> </table>	発表者	発表者	視聴者	視聴者	視聴者	視聴者	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分ならどう考えるか」を考えながら聞くように指導する。 ・言葉だけでは伝わらないため、実際の資料を示しながら説明すると分かりやすいことに気付かせる。 ・「なぜそう考えたのか」と理由を付けて伝え合いが行われるように指導する。 ・発表者の一人は話し合いの内容をメモし、どんな話し合いが行われたか記録するようにする。 ・「どうしてそう考えたのか」と問いかけ、情景描写、色彩、オノマトペ、登場人物の心情の変化に気付かせるようにする。 <p>◆「オツベルと象」を読んでまとめたなぞカードを活用して、友達に思いや考えを伝えようとしている。【態】☆発言・観察</p>
発表者	発表者							
視聴者	視聴者							
視聴者	視聴者							
まとめ (5分)	<p>○学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてについて振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え合いを通して、考えが深まったり広がったりしたことを振り返りカードに記入する。 ・一つの作品からいろいろな考え方を受け取れることを確認する。 <p>◆友達と意見や感想を共有したことから、自分の考えを広げている。【思】☆記述</p>						

(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
<p>他の学習課題を選んだ児童の交流を通して、自分の考えを広げている。「もっと他の読み方があるのではないか。」「次の発表では、自分は〇〇だけではなく△△にも注目したい。」等、疑問点や次の学習に活かしたいことを考えている。</p>	<p>他の学習課題を選んだ児童の交流を通して、自分の考えと比較している。これにより、「〇〇さんの考えを聞いたら考えが〇〇に変わった。」「〇〇と△△で悩んでいたけど、どちらとも解釈できると感じた。」等、考えを広げている。</p>	<p>解釈に根拠をもてていない児童には、「どうしてそう考えたのか」と問いかけ、情景描写、色彩、オノマトペ、登場人物の心情の変化などに気付かせるようにする。</p>

(4) 修正した本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	○学習の流れを確認する 友達と意見や感想を共有して、自分の考えを広げよう。	・本時の学習のめあてや、流れを確認する。 ・本時で扱う作品のあらすじを確認する。
展開 (35分)	<p>発表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短く分かりやすく発表する。 →前時でしっかり話せるように指導しておく。 ・視聴者が発表に興味をもつように、三択クイズなどを取り入れていくのもよい。 ・発表が分からないとき →シンプルに問いに戻る (問いを変える) <ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の他の作品の「オツベルと象」を読んで見出した学習課題とその解釈について、なぞカードを使って、各グループで発表する。 ・発表を聞いたグループで、「その解釈に納得できるか」「他の考え方はないか」を視点に考えたことを伝え合う。 ・発表をした人はグループに残り、発表で伝わらなかったことを補足する。 ・発表グループが移動し、伝え合いを行う。 <p>伝え合い (学び合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間をじっくりとる。(全グループの発表はいらない) ・児童が主体の学習 ・質問ではなく意見を言わせていきたい。 	<p>◆「オツベルと象」を読んでまとめたなぞカードを活用して、友達に思いや考えを伝えようとしている。【態】☆発言・観察</p> <p>読みの根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文 ・自分の経験 ・作者の人生 ・他の作品 <ul style="list-style-type: none"> ・「自分ならどう考えるか」を考えながら聞くように指導する。 ・言葉だけでは伝わらないため、実際の資料を示しながら説明すると分かりやすいことに気付かせる。 ・「なぜそう考えたのか」と理由を付けて伝え合いが行われるように指導する。 ・発表者の一人は話し合いの内容をメモし、どんな話し合いが行われたか記録するようにする。 ・「どうしてそう考えたのか」と問いかけ、情景描写、色彩、オノマトペ、登場人物の心情の変化に気付かせるようにする。
まとめ (5分)	○学習の振り返り ・めあてについて振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え合いを通して、考えが深まったり広がったりしたことを振り返りカードに記入する。 ・一つの作品からいろいろな考え方を受け取れることを確認する。 <p>◆友達と意見や感想を共有したことから、自分の考えを広げている。【思】☆記述</p>

8 板書計画

<p>賢治の不思議発見！ 『作品の世界をのぞいてみよう』 やまなし 宮沢賢治 作</p> <p>友達と意見や感想を交流して、 自分の考えを広げよう。</p>	<p>学習の流れの確認</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 発表・ 伝え合い・ 振り返り
--	-----------------	--

9 机間指導の目的(◎)と教師の声掛け(・)

◎発表がうまくいくように

- ・ 実際の資料を示しながら説明するとよいです。

◎発表に解釈の根拠をもたせ、情景描写、色彩、オノマトペ、登場人物の心情の変化に気付かせる

- ・ どうしてそう考えましたか。

◎友達の意見を聞き取るために

- ・ 「自分ならどう考えるか」を考えながら聞きましょう。

◎価値ある対話ができているとき

- ・ 「なぜそう考えたのか」をしっかりと理由付けできていますね。

10 資料 なぞカードの作例

宮沢賢治の本を読もう ()グループ

選んだ本
オツベルと象

なぜ(学習課題)
「サンタマリア」は何を表しているのか

絵

解説
「サンタマリア」はとくな、家族や仲間に対しての助けを意味していると考え、なぜなら、オツベルが象に対しての仕事まきつくしていくと、月を見ながら「サンタマリア」と言っていたから。月を見ているということは上を向いているということで、上には、あの世があると象は考えていたのではないかと。また、一日目の仕事の後に食べるおはきをかき、たが、日がたつにつれて減っていて弱っていること表している。助けを求めた方では無いと考えられる。このように理由から、サンタマリアはとくな、家族や仲間に対しての助けを意味していると考え。

宮沢賢治の本を読もう ()グループ

選んだ本
どんぐりと山猫

なぜ(学習課題)
なぜ、くりの木、たき、白いきのこ、りす、人、どんぐり、山猫、こがてきたのか

絵

解説
「どんぐりと山猫」にはくりの木、たき、白いきのこ、りす、一郎、どんぐり、山猫が出てくる。それは「ハーローウ」の墓の碑の上に書いてある「人間も動物も植物もたがいに心が通い合うような世界」という理想からこれらの人間、動物、植物を出して、話し、語り、歌で心が通い合うような世界というのを表し伝えるためだ。本当は茶色いふうのどんぐりだけと命があふ、金色のどんぐりを登場させたんだと思う。

宮沢賢治の本を読もう ()グループ

選んだ本
注文の多い料理店

なぜ(学習課題)
なぜ顔がくしゃくしゃになりお湯に入るとおむとの顔にもとらぬたのか

絵

解説
最初神主は犬が泡をういてたおれたとき、犬の値段を口にして狼をい、と言った。その時点で神主は悪人というの分かる。たがロベジで食べられそうになったとき、助けをくれたのは犬。たが助けられたものを、のい肌おれた、たが罰をあてられたのではないが、宮沢賢治は動物は目にあつたつと悪いことをするといふことを伝えたりのではないかと考へた。

宮沢賢治の本を読もう ()グループ

選んだ本
オツベルと象

なぜ(学習課題)
「おや、川入はいっぢりけな、た」の川は何のことか

絵

解説
川は、三途の川を表している。根拠は、象はおもりをつけても普通に喜んでいら、(P4 & 17, 18)が、やせたイ差助けられたらさびしうに笑っていた。(P8 & 14)「たがら死か」近づいていてそれを仲間がまた死んじ、だめと言っていると思った。そして、賢治は重カ物がとても女子まを「たが、重カ物か」死ぬのがいやだから「た」と思ふ部分と死、川には、